

令和4年度 学校アクションプラン 年度末評価

龍谷富山高等学校

重点項目	1. 教科指導	
重点課題	生徒の学習意欲を高めるとともに、自主的に学習活動を進めていく生徒を育てる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習課題を見つけ、意欲的に学習活動に取り組む生徒が少ない一方、学習課題を与えると真面目に取り組む生徒は多い。 ・平日、休日を通して学習時間はあまり多くない。 ・目標を持って学習時間を確保し、学力向上に向けて取り組もうとする意識の向上が必要。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・70%以上の生徒が家庭での学習時間を昨年度より増やすようにする。 ・指導と評価の一体化を図る。70%以上の生徒が学期末の評価に納得できるようにする。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に直結する課題を提示するように努める。 ・評価の基準を明確にし、生徒に理解させる。特に観点別評価において。 	
達成度	12月の学習時間調査によると、前年の同時期よりも微増しているが、今年度の7月よりは減少している。年度末の欠点保有者は減少した。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の課題については内容を精査する試みが為された。 ・評価の仕組みが大幅に変更された結果、欠点がつきにくくなった。 ・運動部強化週間では、運動部以外の生徒に対し、課題に取り組みさせた。 	
評 価	C	新学習指導要領が施行された1年目であったが、観点別評価においては、特に大きな混乱は起きなかった。しかし生徒の学習意欲向上にはあまり結びついていない。
次年度へ向けての課題	観点別評価導入の2年目、指導と評価の一体化を、家庭学習の定着に結び付けたい。	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

重点項目	2. 宗教教育	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「学園の心」の具現化に努める(自分の内側にある思いを言語化・行動化する)。 ・ 慈光堂や教室内で合掌する姿を美しく保つこと(beauty of form = 様式美)を、常に意識する。 ・ 報恩献金・募金活動の活性化 	
現 状	慈光堂を本校における「中心となる場所」「特別な場所」として、教員・生徒ともに認識していることが、礼拝の態度から感じることができる。	
達成目標	慈光堂では、教員・生徒ともに、人の話に耳を傾ける時間・心を落ち着かせる時間であることを、共通認識とする。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各種礼拝で、多くの教員に講話の機会を持ってもらい、宗門校の教員であるという意識を高めるとともに、生徒に「気付き」を与えられるような講話を提供する。 ・「報恩の日」に生徒(3年生)が話す機会を設けることで、生徒自身が同世代の思いや考えを知り、己の日常に刺激を与えるきっかけとする。 ・行事は特別な時間であることを生徒に意識させるため、移動時(入堂前)から静かにする、正装(ブレザー着用)で臨む、念珠を持参する等、担任が教室での指導を徹底する。 ・行事や礼拝前に、報恩献金の意義について話す。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画通りに宗教行事を実施することができた。 ・宗門校らしく、厳かな雰囲気の中で宗教行事に取り組むことができた。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス報恩講の代替行事として、学年報恩講を実施した。 ・「報恩の日の礼拝」で、3年生の生徒が講話を担当し、部活動・勉強の両面から、残りの高校生活をどう過ごすかを幹として1・2年生に話をし、生徒も傾聴していた。 ・朝の講話で、一度した話はしないよう、多様な視点からの講話を心がけた。また、パワーポイントを用いる、あるいは生徒が楽器やメッセージ性のある歌を披露し、その曲に応じた話をする等、講話担当者および勤行担当者が、飽きがこないよう工夫を凝らした。 ・報恩献金から、様々な団体・法人・ボランティアグループに送金した。また、「ウクライナ危機支援金」や「トルコ・シリア地震緊急募金」など、非常時にも素早く対応した。 	

評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの先生および生徒が、報恩の日の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝での講話の準備を徹底し、生徒の琴線に触れる話をした。 行事において、担任が入堂前指導を徹底している。
次年度へ向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> 報恩の日の礼拝における、3年生生徒講話の継続 報恩献金の意義について、担当者が毎回、行事前に触れる。 正装の場面で、ブレザー着用を忘れた生徒が見受けられたので、前日にしっかりと伝達してもらう。 謹慎生徒が朝の礼拝に参加している場合、時折、生徒指導部の先生に講話を依頼 次年度の各種礼拝や宗教行事も、「言われてみれば確かにそうだな」と気付ける、生徒にとっての良い言語体験となる場としたい。

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	3. 進路指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路意欲の向上と進路実現に向けた進路指導 特進コースの授業改善（授業進度・課題・入試分析） 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 進路に対する向上心があまりない生徒は、現状で満足した進路先を選択してしまう傾向にある。 進路目標達成のために必要な学習時間や学習量を確保できない生徒がいる。 授業進度に遅れがあった場合は、模試等で対応できないことがある。 毎日の家庭学習量が学力の定着度に十分結びついていない生徒がいる。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導に対する満足度90%以上 進路実現に向けて努力した生徒80%以上 模試範囲・入試問題を意識した授業内容にする。 	
方策	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の適性或能力を詳細に把握するとともに、生徒自身にも自覚を持たせる。 的確な進路情報とともに生徒の学習環境の把握や学力分析を行ないより適切な進路支援につなげる。 模試範囲を意識した授業進度・内容を行うためにも、効果的に課題に取り組ませる。 龍富塾(放課後指導)及び朝学習に積極的に取り組ませ、定着度を高めていく。 	
達成度	<p>【進路活動に関するアンケートより】（3学年：2月実施）</p> <p>①積極的に進路活動に取り組んだ・・・96% ②選んだ進路先に満足している・・・92%</p> <p>③進路について親に相談をした・・・97% ④進路について相談できる先生がいた・・・93%</p> <p>⑤進路について相談できる友人がいた・・・90% ⑦学校や会社の見学に意欲的に参加した・・・88%</p> <p>以上、進路実現に向けて積極的に活動した生徒が多く見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生の特進コース、進学コースの生徒全員が、1月模試・2月模試を受験したことで、3年生(受験生)の0月期としての意識を高めることができ、志望校についても、自分の成績を客観的に分析することで、今後どのように取り組まなければいけないかを、真剣に考えさせることができた。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響が続く中でも少しずつ進路活動が例年のようにできるように回復してきた。各学年での進路行事も予定通りに実施することができた。 大手予備校講師による全体研修会(年度末)を開催し、次年度に向けて、全教職員で組織的にまた戦略的に生徒の指導にあたる方策を共有することができた。 	
評価	B	<p>予定していた進路行事や研修を実施し、ほとんどの生徒（3年生）が進路を決めた。</p> <p>また、現1・2年生の進路に向けた意識の高まりが見受けられるようになった。</p>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 早期からの進路意識の醸成とそのための情報提供や進路指導のあり方の検討 生徒の進路実現のために必要な教員の指導力の向上を図る。 新学習指導要領における「大学入学共通テスト」に向けた準備 特進コースを志望する生徒が増えるように、進路実績はもとより、特進コースの取り組みを広く中学3年の生徒にPRするための工夫を行わなければならない。 	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	4. 生徒指導	
重点課題	あいさつとコミュニケーション	
現 状	コロナ禍以降、あいさつの質が低下している。 大きな問題行動は減少しているが、生徒間トラブルや、制服の着こなしの乱れがある。 ベル着に温度差がみられる。	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・さわやかな身だしなみ ・時間厳守（5分前行動） ・いじめ0 ・交通安全（事故防止） 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から日本一の挨拶を目指し生徒に範を示す。 ・身だしなみ指導の徹底。 ・チャイムと同時に授業を開始する習慣の構築。 ・学園生活調査や面談等を通して生徒とのコミュニケーションをとり生徒の把握に努める。 ・毎月15日を「さわやかな日」と設定し、朝のあいさつや声掛けを通して登校時の生徒を把握する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・徐々にさわやかに挨拶ができる生徒が増えてきた。 ・指導を行った後はおおむね良好である。 ・ベル着までは至っていないが教室に入るようになってきた。 ・外部からの苦情などに対して、様々な情報提供をしてくれるようになった。また、呼びかけにも正直に答えてくれる生徒が増えた。 ・ほとんどの生徒が8時半前には登校できている。 	
具体的な取 り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教師側から元気よく挨拶を心がける。 ・各学年ごとに強化週間を設定した。 ・教科担当に依頼し早め早めに教室に向かう。 ・学園生活調査の実施。 ・さわやかな日を中心に生徒会とも連携し、あいさつ及び交通安全指導を実施。 	
評 価	C	残念ながらいじめにつながる事案が発生した。また、交通事故も数件発生した。
次年度へ向 けての課題	ほとんどの生徒が、本校で目標を持って学校生活を送ってくれている。各項目においてもほとんどの生徒が達成できていると思う。しかしながら、各クラス若干名の生徒指導に苦慮していることも現実である。指導に対して反抗的な生徒は多くない。ひと手間かければできる生徒であると思う。見ていないところでも自主的に各項目を実践できるよう指導に努めたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	5. 特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動（ホームルーム活動・学校行事）や生徒会活動、委員会活動、部活動等を通して、自主性・責任感・協調性・計画性・実行力を育成する。それとともに、他の生徒の活躍や活動に興味をもち、本校生徒としての一体感をもたせる。 ・昨年から実施している「RYUTOMI SDGs ゴール∞(エイト)」の内容の周知に努め、その内容を意識して学校生活を送ることのできる生徒の育成に努める。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、生徒会活動などに意欲的に取り組み、充実した学校生活を送る生徒がいる一方で、何となく毎日を過ごしている生徒もいる。 ・他の生徒の活躍への関心があまり高くない生徒がいる。 ・回収運動への意識の高い生徒は限られる。 ・体育大会などの学校行事への関心は高く、積極的に取り組む生徒が多い。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（体育大会・文化祭など）には生徒・教職員全員で協力して取り組む。 ⇒学校行事の満足度70%以上。 ・他の生徒の活動や活躍に関心をもつ。 ・「RYUTOMI SDGs ゴール∞(エイト)」の内容を周知徹底させ、回収運動を活性化させる。 ⇒回収量の目標：昨年度比120%。 ・生徒会活動及び委員会活動を活性化させる。 ・部活動への加入率を上げる。 	

方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育大会などの学校行事について、代議員会を開催し、生徒の考えや希望を把握する。可能な範囲で生徒の意見を反映した内容で実施する。 ・生徒の諸活動（受賞・代議員会・委員会）について、掲示物を充実させ、他の生徒の活動に関心を持たせる。 ・回収運動では、引き続き毎月集める種類を決め、積極的に呼びかける。回収物をこまめに回収業者に送り、回収量を把握しやすくする。 ・生徒会会長選挙を実施したことにより、一般生徒の生徒会に対する関心が高まると考えられる。生徒会活動への関心を持続するため、「RYUKOKU TIMES」などを活用し、活動内容を分かりやすく伝える。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・代議員会の開催は1学期に限られた。 ・運動部の大会結果を掲示し、詳細に伝えることができた。 ・体育大会、文化祭などの学校行事は、今年度もコロナの影響で制限付きの活動となった。 ・回収物は、今まで送付していなかった分も含め、年度内に業者に送ることができた。 ペットボトルキャップ…半年で180kg回収 ベルマーク預金…1年間で32,867円増加 ・カタールレ富山との連携協定により、合同での挨拶運動の実施や、カタールレ富山のホーム最終戦で本校のPR活動を行うことができた。また、富山中央警察署から「きときと見守り隊」を委嘱された。
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・代議員会を開催し、生徒の意見を把握するよう努める ・部活動の大会予定や結果、回収運動の結果などについて、掲示物をこまめに更新する ・福祉委員会が呼びかけ、毎月の回収運動を実施する ・カタールレ富山との連携協定による挨拶運動の実施
評 価	D コロナ禍での文化祭の実施において、方針を定めるのが遅くなったため、準備期間が十分に取れなかった。
次年度へ向けての課題	<p>生徒会活動、部活動、学校行事などについて、生徒が活発に学校生活を送ることができるような取り組みを考える必要がある。</p> <p>来年度から文化祭を毎年開催とするため、実施内容について早く決定し、生徒主体で行えるように心がけたい。</p>

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	6. 環境と健康指導
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や各種活動が落ち着いて取り組めるための環境管理（美化）に加え、非常時に自分の身を守ることができる危機管理（防災、防疫）の両面についての意識向上を図り、実践（行動化）につなげることで校内外の環境整備を図る。 ・「自分の健康（命）は自分で守る」という意識を向上させ、将来にわたって健康な生活が送れるよう、疾病予防や健康の保持増進に努める態度を身につけさせる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎・施設を自らきれいにしようという積極的な清掃活動につなげるために、美化意識の向上が飛鳥である。 ・新型コロナウイルス感染症に対する慣れに加え、県の指標もステージ1になったことによる気の緩みから、予防対策や行動意識の低下が目立つようになってきた。 ・健康診断後の受診率が高くなく、自らの健康への意識を高める必要がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「きれいな学校・気持ちの良い学校・安心して過ごせる学校」を目指し、常に整理整頓が行き届き、丁寧な清掃活動や進んでゴミを拾う姿などが日常化する学校を目指す。 ・学校内において、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症クラスターを発生させない。 ・健康診断後の受診率の向上を図る。（目標値 各学級…40%以上、各学年及び全校…30%以上）
方 策	<p>テーマは「共働と教師の背中」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担当箇所の清掃は生徒だけに任せず、教員も一緒に清掃活動を行い、自分たちだけが、させられている」という意識を持たせない。 清掃終了後は、必ず点検を行う。また、労いの言葉をかけられることで「次も頑張ろう」という実践意欲につなげることができる。 ・校内外の環境美化については、特活部（美化委員会、運動部）等と協力して行い、意識化を図る。 ・感染症を含めた疾病予防のための基本行動（清潔保持、咳エチケット、早期受診、休養など）を自ら実践できる態度と意識の喚起に努める。 ・健康診断後は、受診カードを生徒に配布し受診勧奨するとともに、学期末の保護者懇談会の機会を

	<p>捉えて保護者に対しても受診行動への喚起を行う。定期的に受診状況を集計し周知する。</p> <p>運動部員については、各顧問からの受診勧奨も併せて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康に関する情報提供と知識の向上のため、「ほけんだより」を発行する。 外部講師による保健講座の開催。（今年度は性教育講座の予定、2・3年生は昨年度未受講分の献血セミナーも実施）
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 校内清掃活動においては、教員と生徒の協働と清掃後の確認を何度も呼びかけたが、一部不十分な箇所があった。 校外清掃活動においては、生徒会執行部、美化委員及びいくつかの運動部の有志の協力により、効率よく行うことができた。 感染症予防については、新型コロナ及びインフルエンザによって、いくつかの学級において学級閉鎖を行ったが、早期の判断と実施により、大きなクラスターの発生や長期化を防ぐことができた。 健康診断後の疾病異常に対する受診率は、昨年度をわずかながら上回ったが全体的には依然低迷している。 外部講師を招いての保健講座は、性感染症防止講座に加え、昨年度未受講であった2・3年生に対する献血セミナーも計画通り実施ができた。
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員が共に取り組む清掃活動の継続 感染症予防行動の徹底（マスクの着用、手指の消毒、換気、早期の休養） 健康診断での受診勧奨対象者の未受診者に対する通知表の再発行、及び保護者懇談会での意識喚起 月1回以上のほけんだよりの発行
評価	<p>C</p> <p>方策として掲げた項目についてはほぼ達成しているが、清掃活動の徹底や受診率などで目標とする結果に結びつかなかった。</p>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の流行収束が見え始め、5月から5類へと引き下げられるが、様々な制限が徐々に解除されることにより、さらには5類への引き下げによる自己負担の発生等により流行の再燃が懸念されている。当面は、感染防止行動の継続も行いつつ、学校教育活動を進められるよう対応していくことが必要である。 様々な場面や実践を通じ、健康で安全な学校生活を送れるための意識と実践力の向上を目指し、卒業後の将来につながる健康観の基礎を築くための取り組みを進めていきたい。

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった